

企業名

ナカムラマジック株式会社

金融機関名

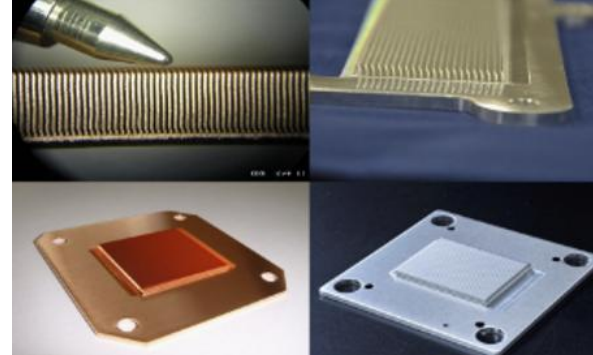
長野県信用組合

知財・事業の概要および知財ビジネス報告書作成の目的

製造業

特許・商標・意匠・ノウハウ

プレスや切削等の精密金属加工をはじめとする14の高度な塑性加工技術を『ナカムラマジック®』と称し、当該技術を駆使して、電子機器、自動車、半導体、航空機等の多くの分野に精密部品を供給している。知財ビジネス報告書の作成では、将来的に当社の技術の中核を成す「マジックヒートシンク」の量産体制整備に向けたビジネスモデルの転換と、その結果としての将来的な財務インパクトについて取りまとめた。



知財ビジネス報告書への記載概要

当社技術の代表例であるオーロラフィン工法

過去～現在
(As-Is)

知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する

「ナカムラマジック」の工法の中でもオーロラフィン工法を中心に具現化した製品である、マジックヒートシンクについて、一般的なヒートシンクとの差別化要素について整理し、強みを明確化した。また、マジックヒートシンクをはじめとする各製品において、大手メーカー等への売上実績があり、開発案件についても多数進行中である点を整理した。

現在～将来
(To-Be)

将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する

多数の開発案件に対応するため、新たなビジネスモデルへの転換の必要性と概要を整理し、千鳥配置技術の実用化推進、エンジニアリングサービス提供のための生産体制構築、ライセンスビジネス展開を見据えた特許保護を課題として整理した。課題解決の方向性として、知財戦略を軸に、開発・生産・販売・マーケティングの各領域における戦略リストについて整理をした。

将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する

ライセンスビジネスモデルの実現を見据え、知財戦略として権利化の推進やオープン＆クローズ戦略を中心に整理した。さらに、将来キャッシュフローを軸とした数値計画について、同モデルの実現可否を踏まえた複数の財務シナリオを整理した。

作成を支援した
機関名・氏名

明和総合特許デザイン事務所 藤掛 宗則

長野県信用組合からの評価結果

| | | |
|-----------------------------|----------|---|
| 知財ビジネス報告書を通じて認識した強み | 改めて認識した点 | 代表的製品の「マジックヒートシンク」は従来工法と比して軽量化・省スペース化を実現しており、利用者に対して当該製品の使用により高い付加価値を提供していることが認識できた。 |
| | 新たに認識した点 | 千鳥配置の放熱器は大手メーカーも注目する技術であり権利化できれば広範囲な領域をカバーでき、今後の事業展開・売上向上に寄与する可能性がある。 |
| 知財ビジネス報告書を通じて認識した課題 | 改めて認識した点 | マジックヒートシンク製品の関連特許について、市場での優位性の維持に向け、存続期間を見据えた改良開発等の取組活動が重要である事を再認識した。 |
| | 新たに認識した点 | 取引先企業と対等な関係構築には特許ポートフォリオの充実が重要である事、また革新性が高い当社製品につき大手メーカーとの新規契約締結に至るまでには相手メーカー側の部品仕様変更や商慣行等の壁が高く、ブランド化や実績の積み上げが重要であると認識した。 |
| 将来のビジネス展開に向け金融機関としてサポートできる点 | | <ul style="list-style-type: none">■ 新規事業展開や知財投資等に対して融資金等の金融支援を検討する。■ INPIT長野県知財総合支援窓口等の支援機関と引き続き連携し、個別受注案件ごとに知財の強みを活かした契約選択を可能にする等の経営力強化に向けた支援を実施していく。 |

ナカムラマジック社からのコメント

| | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 知財ビジネス報告書の作成を通じて得られた新たな気づきがあったか | 今後のモデルケースとなりうる開発計画の進め方について学んだ。 |
| 知財ビジネス報告書をどう活用できそうか | 今後の活動の指針として知財ビジネス報告書を活用したい。 |